



TITLE:

[28-8]東北タイ農村の社会生活  
(daily activity survey による): 仮題  
<構成案 その1>

AUTHOR(S):

小池, 聡

---

CITATION:

小池, 聡. [28-8]東北タイ農村の社会生活(daily activity survey による): 仮題 <構成案 その1>. DDニューズレター 1986, 28: 79-81

ISSUE DATE:

1986-08-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/243042>

RIGHT:

個人情報保護のため非表示の部分があります。

〔28-8〕 東北タイ農村の社会生活 (daily activity survey による) : 仮題  
＜構成案 その1＞

小池 聡

イントロダクション --- 村人の生活リズム ---

1. daily cycle

- ・生活行動の分類：生理的必要行動、労働、余暇 -----> 細分化
- ・自然のリズムとの調和
- ・毎日、ほぼ決まった時間にみられる生活行動＝ 睡眠、食事（3回）、水浴
- ・労働時間帯：起床と朝食、朝食と昼食、昼食と水浴の間
- ・一般には、労働時間の減少は休養時間の上昇と対になっている。
- ・この意味で、行事のある（余暇時間の多い）日は「ハレ」の日である。
- ・サンプルによる差異（以上は専業農民の場合）

2. seasonal cycle (季節性)

- ・稲作を軸に構成されている。 ----> 『東南アジア研究』23(3) 参照

本論（社会生活の記述）

1. 世帯内部における生活の共同性

- ・夫と妻とは稲作におけるパートナーである。  
-----> 『東南アジア研究』23(3) 参照
- ・その稲作が労働ピークをむかえるとき、年間を通じて constant な労働を要求する活動（野菜作、家畜の世話、家事）は老人や子供によって行われる。

・・・・・・以上から、世帯は労働の組織として一定の独立性をもつ社会単位である。しかし、農業労働のピーク時などには、世帯内部ですべての必要を充足できないため、いくつかの世帯が共同する契機が存在する。田植がそうである。もっとも、世帯間の共同は直接的な必要性の存在なしでも行われる。この場合は、交流機会としての意味もある。

2. 世帯間の生活関係＝ 主として農作業における労働力のやりとり、物のやりとり

今までにわかった事実関係を列記する。

- ・労働力のやりとりは、物（主に日常的食品材料）のやりとりと同時に起こる傾向がある。さらに、労働内容別にみると（稲作、畑作、野菜作）、それぞれの領域での労働力のやりとりが同時発生することもある（          家と          家の例）。
- ・（aに関連するが）野菜作については、収穫時に他世帯の成員があらわれることが多い〔当然、収穫物の分配がなされているであろう〕。

- c. 子供世帯から老親の世帯に対して行われる、稲作や野菜作での手助けがみられる（手助けは、少なくとも一年の生活サイクルの中では無償の行為）。子供が娘であるか息子であるかによる非対称性はない。
- d. 逆に、親世帯から子供世帯への手助けもある。例えば、[redacted]家は世帯主の前妻の娘と息子世帯における、米倉や家屋の建築を手伝っている。
- e. 畑作（キャサバ）では、手助は少なく、賃金労働が顕著である（収穫と除草）。賃金労働者には、10代から20代の未婚女性が目立つ（余剰労働力の吸収？）。
- f. （稲作、野菜作を含めて）賃金労働者の世帯と雇用者の世帯との生活上の関係は、その場限りのことがほとんどである。[例外：[redacted]家（[redacted]が賃金労働者）と S.No.18= sum dio kan とのケース；この場合、[redacted]は奉仕の労働も行っている。] 親族関係の有無と労力調達方法との関連は一概にいけない。
- g. HNKでも、宮崎のいう「部分共同経営」では、世帯間の労働配分、収穫物配分はかなり神経が使われる（例えば、[redacted]家とDHの親族世帯）。だが、HNK・KNKでは様子が異なる。労働力の配分状況（田植）からみて、[redacted]家（未婚女性2人の世帯）は妹世帯にかなり依存しているようだ。

・・・・・・以上、世帯を一つの単位として、労働力もしくは物のやりとりを分析した。しかし、世帯成員は、その個人的属性にもとづく諸関係を生活のなかでとり結ぶ。そのため、より「個人」に焦点をあてた分析が必要である。ここでは、個人的属性として、性または年齢をとりあげる。

### 3. 性または年齢によるつきあい

#### a. 幼児 (infant)

- ・ 昼間、両親が外へ働きに出ているとき、幼児の面倒は身近な老人がみる。
- ・ 幼児のつきあいは、その老人のもつ人間関係による規定を受ける。例えば、チナウォン家の孫（3才）の遊び友達は、同居老人（[redacted]）の関係親族である。

#### b. 児童 (childhood)

- ・ つきあいのタイプ：(1). 自宅もしくは近親世帯におけるつきあいで、何らかのサービス授受の側面をもつ（相手は「おねえさん」的存在）。
- (2). 集落内（集会所など）における交遊関係。
- (3). 農地へ親と同行したときの交遊関係。
- (4). 放牧や自然物採集の仲間。

・ より「個人的」なつきあいの萌芽：とくに、タイプ (2), (4)

#### c. 青年から大人 (adolescence --> adulthood)

- ・ 男性：魚取りや脱穀における、上は40代までをカバーするような幅広い年齢階層内でのつきあい（酒宴付）。
- 村事にかかわるつきあい（村長と若い取り巻き連との constant なつきあい）。

- ・女性：男性と比べると、近所づきあいが頻繁である。
- ・老人：  
 (M75)の場合、(M74)と  
 (M53)が、いつも寺の前で竹細工をするときの話し相手（これはどのような文脈に位置づけられるか？）。

むすび

ここまでの話しを以下のように整理する。

世帯間、個人間の生活上の関係は2つに大別できる。

(1). 年間を通じた constant なもの

(例) 家と娘世帯

家と妹世帯 (HNK・KNK)

村長とその取り巻き連

など

(2). 一時的なもの

(例) 家と息子世帯 = 田植における労働交換

家と 家 = 畑作における HNK

「若い」男たち = 魚取りの共同作業

など

2種類の関係について説明する。

(1) は、とくに世帯間の場合、様々な生活領域ごとの成員間の交流が重層的であることを意味する。近親の数世帯、ごく親しい数人に限定され、社会的ネットワークの中核部を構成する。

(2) は、相互作用の大きさ・性格は様々だが、一年の生活周期上にちりばめられた諸契機において、とり結ばれる。その契機として、農作業が重要である（他領域での交流を伴う点において）。(1) が中核部を構成するのに対し、社会的ネットワークの広がりの規定する。